



おくのえいこ 県政報告

明日に向けてえいこの力!

Vol.10

平成26年 9月発行

発行：自由民主党
富山県議会議員会

ごあいさつ

新涼の候、益々ご清栄のことと、お慶び申し上げます。

今年の夏は、全国各地で豪雨災害が相次ぎ、隣県高山市においても川岸が崩れ、車が流されたり、橋が崩落したりと、大きな被害が出ました。被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。自然災害への備えや初動、スムーズな復旧への体制整備等の大切さを改めて感じた次第です。

一方、高校球児の夏の祭典「全国高等学校野球選手権」では、県代表の富山商業がベスト16と、昨年の富山第一に続き、大健闘を見せました。甲子園球場で、テレビの前で、県民皆が声援を送ったことと思います。高校生のひたむきな姿にエネルギーをもらった夏になりました。

今任期も半年余りとなりましたが、目標に向かってひたむきに努力し、全力でぶつかる高校球児たちの姿を見習い、しっかりと議会活動に邁進していく所存です。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、夏の疲れが出る時期ですので、十分ご自愛の上、実り多い秋となりますことを祈念申し上げます。

富山県議会議員

奥野 泳子

6月25日

予算特別委員会

(抜粋)

【ICT環境の整備と利活用について】

Q. 小・中学校や高等学校、特別支援学校などの学校施設におけるICT環境の整備状況とその必要性について。

PICK UP

文部科学省の第2期教育振興基本計画では、ICTの積極的な活用によって指導方法を改善し、確かな学力を育成することを目的として、平成29年度までの4年間で、ICT環境を整備することとしている。

また学習指導要領には、小中高校のすべての教科において、指導内容に感じ、コンピュータ等を活用することと記載されている。

教育長

A. 本県の整備状況は、①教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数が5.7人全国16位、②電子黒板のある学校の割合が85.8%全国5位、③超高速インターネット接続率が92.1%全国4位、④校務用コンピュータ整備率が120.9%全国11位と、全国上位のものが多く、現時点では、一部は国の計画目標に達していない。
ICTの活用は、社会で必要とされる能力であり、また授業の効果を上げ、学力を伸ばしていく上で、有効なものと考えており、そのためのハード・ソフトの環境整備を進めていく必要があると考えている。



Q. 情報モラル教育の充実が求められているが、本県の現状と今後の取組みについて。

PICK UP

児童、生徒の間でも携帯電話やスマートフォンなどが普及し、ネット利用が急速に進む中、ネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪行為、有害情報など、様々な問題が発生している。コンピュータ等の使い方だけでなく、情報社会において守るべきモラルについての教育が求められている。

教育長

A. 情報モラル教育には、教員の指導力の向上が必要なことから、県教育委員会では、専門の職員が学校を訪問して行う「情報教育訪問研修」、若手教員研修などにおいて、情報モラルなどに関する研修を実施している。
情報モラルについては、ルールなどの単なる理解にとどまらず、実際に適切な判断や行動を取る態度を養成していくことが重要であり、今後とも、学校の教育活動全体を通して情報モラル教育の推進に努めたい。

Q. ICTを活用した県民生活の質の飛躍的な向上やICT利活用を促進するための基盤整備に向け、富山県全体のICT環境を今後、どのように整備し、利活用していくのか。

知事

A. 今後新たに、医療福祉分野では、医療と介護の連携や予防・生活支援など、高齢者が住みなれた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムでのICT利活用を、防災分野では、県総合防災情報システムの更新に併せ、災害時の情報を確実かつ迅速に伝達し、県民の安全・安心な暮らしを確保するための「公共情報コモンズ」の導入などに取り組んでいく。
地域的な課題解決のためにICTを活用した取り組みを進め、富山県がモデルと言われるように目指したい。



【特別支援教育の充実と教員採用制度について】

Q. 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級、通級担当の特別支援学校教諭免許状保有率の早急な向上に向けて、その必要性と今後の取組みについて。

PICK UP

小中学校の特別支援学級の設置数は、この10年でおおよそ1.6倍、4・5学級に増加しており、今年度も小学校で9学級、中学校で4学級が新たに設置された。文科科学省は、特別支援学校の教員だけでなく、特別支援学級の担任も特別支援学校教諭免許状の取得を求めている。

県内では、特別支援学級の担任で特支免許状を保有しているのは、小学校で28%、中学校で11%。およそ350人が特支免許状を持たずに担任をしており、専門知識、技能の取得が急務となっている。



教育長

A. 県教育委員会では、特支免許状の保有率の向上を目的として、「免許法定講習」の受講により、3年間で免許状を取得できる制度を用意しているほか、放送大学等を利用して、免許状認定に必要な単位を取得するように促している。また、特別支援教育に関する基礎的、実践的な研修の機会を設け、特別支援教育に従事する教員の資質向上にも努めている。今般、奥野委員にもお力添えをいただき、文科省に対して、認定講習等への財政支援など特別支援教育の充実について、新たに要望したところであるが、引き続き特別支援の免許保有率が向上するよう努めたい。

Q. 特別支援教育の充実強化のためには、相談支援が大変重要であり、中核となる県総合教育センターの相談業務体制を機能強化するなど、県の相談支援体制の充実について。

教育長

A. 総合教育センターや教育事務所、各市町村が連携して、地区相談会の開催数を増やしたことにより、総合教育センターでの相談件数は、ここ数年は2千数百件程度になっている。学校からの相談に対しては、困難な事例について総合教育センターの専門家チームによる指導助言を行うほか、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや教育事務所の特別支援教育指導員による指導支援など、複数の機関からなる相談支援体制を構築している。今後とも関係機関の連携を強化し、保護者や学校関係者からの意見を踏まえながら、教員OBや保健・福祉の専門家など人材のさらなる活用も含め、相談支援体制の充実に努めたい。

【北陸新幹線開業PRについて】

Q. 北陸新幹線開業PRを県民運動に発展させるため、県民一人一人がPRの担い手となるような取組みが重要と考えるが、どのように取り組むのか。

知事

A. 今年の年賀状で実施した新幹線開業PRデザインについては、ダウンロード件数が2万件を超えるなど好評だったこともあり、開業間近にあたる来年の年賀状については新幹線に関連した新たなデザインを作成し、多くの県民の方にご活用いただくことによって、新幹線の開業を盛り上げたい。

【富山きときと空港の活性化について】

Q. 富山きときと空港における富山ー羽田便の便数維持と空港の利活用も含めた活性化について。

知事政策局長

A. 北陸新幹線開業により、富山ー羽田便は厳しい競争にさらされると考えているが、一方、羽田の国際線増加による乗継需要の増大に加え、北陸新幹線開業に伴う北陸・富山への新たな旅客需要の増加も見込まれることから、全日空と緊密に連携しながらこれらのニーズを確実に取り込み、まずは路線の維持に努めたい。

今年度は、新たに全日空の海外版機内誌や新聞広告による羽田国際線乗継の利便性のPR、羽田での国内線乗継ぎを対象とするキャンペーンの実施、などを行う。また、羽田空港を経由した訪日ツアーや国内旅行商品の作成など、富山ー羽田便を活用した需要の喚起にも力を入れたい。

さらに、民間経営ノウハウの活用による空港施設のサービス充実、空港アクセス改善等によるゲートウェイとしての機能向上、空港周辺施設との連携による空港周辺地域の活性化などについて取り組むたい。



県議会

特別支援の専門家派遣



奥野 詠子氏 (自民 富山第1)

教員採用選考検査で特別支援学校教諭免許状保有者に点数加算制度を導入すべき。寺井教育長 県内や近隣の大学では免許を取得できる学部・学科が限られ、受検者の急増は期待できない。ハードルが高くなり受検者減少も懸念され、慎重に検討する。高校を含め県として特別支援教育をどう推進するか。石井知事 高校は小中学校のような寄り添う支援とは性質が違ふ。専門家による助言での対応が有効で、本年度は特別支援キャリアコーディネーター1人を定時制など4校に派遣している。

▲平成26年6月26日 北日本新聞掲載

予算特別委

▲平成26年6月26日 富山新聞掲載

災害情報配信へ部会

来月設置 来年度導入へ協議 県は7月、総務省が推進するシステムの機能や災害・防犯情報の通信 課題を話し、2015年システム・公共情報通信 度の運用開始に向けた環境づくりの導入に向け、県庁内 整備を進める。奥野詠子氏(自民)の質問に答へ、石井知事 知事 取り組むまい」と述べた。

質問 答弁の要旨

奥野 詠子氏 (自民)

特別支援免許 加算制度導入せよ 教員採用選考検査で特別支援学校教諭免許状保有者に点数加算制度を導入すべき。



特別支援免許 加算制度導入せよ 教員採用選考検査で特別支援学校教諭免許状保有者に点数加算制度を導入すべき。

平成26年6月26日 富山新聞掲載



8月15日、安倍晋三総理と面会してきました。未来の総理大臣を目指す子供たちと一緒に☆

自民党富山県連青年局では、今年3月、小学校新5、6年生を対象に「もし、わたしが総理大臣になったら」というテーマで作文コンクールを開催しました。

子供たちが思い描く理想の社会はどんなだろう？子供たちが考える国のリーダーの姿とは？それを私たちが知り、心に留めておかなければならない、また子供の頃から、もしくは親子でこの国について考えるきっかけを作りたいという二点から、今年はじめに取り組んだものです。

初年度の最優秀賞は、新保小学校5年桑名瞭徳くん、優秀賞は中央小学校5年廣上龍樹くん、新保小学校5年酒井陽菜ちゃんのふたりに決まりました。なんと一目でも総理と子供たちとの面会が叶わないものかと関係各所にお願いをしていたところ、県連役員だけでなく、他都県の国会議員の方々のお力添えも加わり、見事実現することができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

当日は、総理にひとりひとりの作文に目を通していただき、感想とともに子供たちに対するエールもいただきました。終始温かくご対応いただき、子供たちにとって何よりの励みになったことと思います。

また面会後は、総理官邸や普段入ることのできない総理のプライベート空間、総理公邸も特別に見学させていただきました。子供たちは、総理の椅子に座ったり、赤絨毯の階段で記念撮影をしては、興味津々、目を輝かせていました。私も子供たちに便乗し、大きな刺激をいただいた一日でした。



6月議会一般質問の詳しい様子は、富山県議会のホームページでご覧いただけます。 http://www.pref.toyama.jp/section/0100/

9月25日(木)11時～ 9月定例会 予算特別委員会にて質問いたします。 インターネットで視聴いただけます。

ホームページ http://www.okunoeiko.jp/ ぜひご覧ください。 Facebook 友達リクエストの際にはメッセージを一緒に送って頂くようお願いいたします。 Twitter 本人アカウント 奥野詠子(@Eiko_Okuno) 後援会アカウント 奥野詠子県議 後援会 詠桜会(@eiokai)

連絡先

富山県議会自民党控室 〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 TEL 076(431)5244 FAX 076(441)8421 E-mail:okuno.eiko@lime.plala.or.jp 議員事務所 〒939-8073 富山市大町2-8-2 TEL 076(420)3530 FAX 076(420)3536